

それぞれ車座になって鍋を囲む学生



## 酒抜きで鍋もいいじゃないか

# ほのぼのの 白門祭

第35回白門祭は11月1日から4日間にわたって多摩、後樂園キャンパスで行われた。21世紀最初の白門祭は、大学からの「禁酒措置」の通達により、構内での飲酒及び酒類の販売が禁止されるという状況のなかで始まったが、期間中、急性アルコール中毒で病院に運び込まれる学生は1人もおらず、おおむね成功したといえる。前夜祭やお花見での泥酔者の発生は学校側・学生側双方を悩ませてきた大きなテーマだっただけに、「泥酔者ゼロ」という結果には、一定の評価ができるのではないか。

一方、学生のイベント面はどうだったか。飲食模擬店のなかには、そばめし、スウェーデンパンなどグローバル世紀の幕開けを感じさせるユニークなメニューが数多く見受けられ、韓国風お好み焼き「チジミ」も女子学生がチマチヨゴリを着て売るなど、工夫が凝らされていた。中央ステージでは、バラエティーに富んだ発表が私たちの目を楽しませてくれた。応援団の演技、バンド演奏、もはや定番だが、今年はさらにヒップホップのダンスを発表する団体が頻繁にみられた。

学生記者たちは「ほのぼの」とした学園祭が今回の白門祭の特徴であるとしたが、「ほのぼの」を「マンネリ化している」と、否定的にとらえる意見も少なからずあったようだ。来年度の宿題は早くも出されたといえる。

学生記者 ( 山口 丈晴、中村昌太郎、竹尾 智成 )  
          ( 中西 奈緒、竹平 道雄、鹿毛 実 )

# 前夜祭とんだハプニング

前夜祭の31日夜、映画評論家、水野晴郎氏の講演会が、寸前になって取りやめとなるというハプニングがあった。いま、水野氏は自分が監督・主演し、好評を得ている『シベリア超特急』シリーズ第3弾の撮影の真っ最中。制作に没頭するあまり過労でダウンしたらしい。

「ご本人から届けられた電報には「医者から数日間の安静が必要といわれている」とあった。加えて、舞台上に立っていないこと。「白門祭の成功を病床から心より祈っている」とも記されていた。この企画を春から準備してきたスタッフは、戸惑いの表情を隠せなかったが、ダウンの第一報を受けたのは前夜。窮余の一策として同じ事務所の映画評論家、西田和昭氏がピンチヒッターとなった。

西田氏は、ご自分の人生と映画との関わりをテーマに話された。同氏は幼少時代にハリウッド映画に出てくる、アメリカの家庭風景に大変なシヨックを受けたそうだ。アメリカの冷蔵庫には食物があふれ返り、朝

食にパンとゆで卵を食べている。大戦後の復興もままならない日本で、西田少年はアメリカに憧れを抱き、次第にハリウッド映画にのめり込ん

## テロ報復 講演二題

辺見氏



熱く語りかける辺見氏

でいった。

突撃取材が持ち味の西田氏。アメリカの撮影現場には必ず着物を着て出かけるのだそうだ。「そうすると向こうから『何だお前は』って声をかけてくれるんだよね」。知り合ったハリウッドスターは何人いるかわ

からないほど。「私にとって一生の財産ですわね」といった。「来年は水野がノーギャラでまいります」といい、最後は大学生への一言で締めくくった。「自分たちの頃に比べておとなしすぎる。もっと燃えてほしい！」 (山口)

## 「否定的」立場の辺見庸氏

## 吉田康彦氏は「仕方ない」

『自動起床装置』『もの食う人々』などの著作で知られる作家、辺見庸

氏の講演会が2日目に行われた。

テーマは「私たちがはどのような時代に生きているのか——戦争への抵抗と不服従について」というもので、会場には学生や父

母の方250人ほどが集まった。辺見氏は普段は大学での講演は断

り、

り、

9月11日に起きた同時多発テロ事

件に関して「アフガニスタンでは子供たちが難民となり、死んでいく。このことに心を動かさなければ、何に心を動かすのか」と、アメリカの報復攻撃には否定的な立場を取る。

また、質問の時間には、辺見氏の大ファンという主婦から「アフガニスタンの難民の子を救いたいという思いがあるが、それは女性差別を助長する政権を助長することになるのでは」という意見も出た。

今回の講演で、辺見氏は私たちに

## 吉田氏

テーマが「歴史的イベント後にみるこれからの国際関係」といえば、言わずと知れた「同時テロ」。国連上級広報官として活躍し、現在は埼玉大学の教壇に立つ吉田康彦氏の講演会が4日、8号館で行われた。会場は事件の背景を知りたがっている学生はもちろん、社会人の姿も目立ち、満員の聴衆で埋まった。

吉田氏はまず、「今回のテロ事件に対するアメリカの報復措置は、国連憲章51条の個別的自衛権に基づいてやったことで、急スピードで成立した日本

対して「テロ事件への反応として、何か行動してほしい。やる価値があるかどうか分からなくても立ってほしい。友人とでも、恋人とでも、先生とでも意見を交換してほしい」と強く訴えた。

事件が起きて3か月近くが過ぎようとしているが、日常のなかで関心は徐々に薄まっていく。私たちがすべきことは、何よりも辺見氏のメッセージを受け止め、事件を記憶し続けることだろう。(竹平)

のテロ対策の特別措置法案も、この条文を基にしたものだ」といわれた。しかし、日米ともこの条文の趣旨からは、やや異なったものとなったそう。そして「今回のテロをアメリカ主導のグローバル化に対するテロとする見方と、別にそれとは関係ない宗教的、個人的、反米的なものだとする見方の2つがある」と分析した。

さらに「ここでグローバル化というものの定義を考えなくてはならない。よくいわれるのは経済のポータラシス化だ。つまり、多国籍企業が多く出てきたことからわかるように、

経済活動は国境の壁を超え、世界中で交流が盛んになる。しかし、経済のポータラシス化はグローバル化の一領域にすぎない。他に交通や運輸が発達していくこと、アメリカとソ連の競争が激しかった宇宙活動など、すべてをひっくるめてグローバル化なのだ」といわれた。

また、「今後の国際関係を聞かれることが多いが、今回の報復は仕方ないことだ」といわれた。報復をしなかったら、ブッシュ大統領はリコールされ、秋の選挙は惨敗となるだろう。それを大統領本人は避けなければならぬし、報復しなければ国家の威信に関わるといわれた。

これらの話を聞いて、私自身も今回の報復は当然のことだと思った。しかし、現在行われている空爆のうち、10〜15%が誤爆といわれる。そ

の結果、罪のない市民やNGO施設に被害をもたらしている。ここに着目すれば、テロ撲滅を早期化を図るのは当然のことだと思う。

そして、吉田氏は最後に私たちにメッセージを贈ってくれた。それは「仲間と信頼関係を築くとか、ネットワークを充実させることが大切である。一人で行動しようと思っても限界がある。諸君はどんな仕事(例えば国家公務員や地方公務員)に就いても、世界を広く見て欲しいし、年代を気にせずに、協力しあえるパートナーを作りたい」と話された。1時間30分、全体を通じて熱く語るスピーチからは、自分が国連機関の一員として活躍してきたという自負、そして国際問題に対する深い知識、平和を願う気持ちが強く感じられた。(竹尾)

## 一服の茶に憂さを忘れ

ことしの茶道会の活躍ぶりは目を見張るものがあった。イベント日を1日増やしたこともあったが、とにかく前回の2倍ものお客さんで賑わった。イベントは2日〜4日にわ

たり、サクラ広場で野点のだけ(外でお茶をたてる)を計画したが、3日はあいにく雨だったため、茶室の虚白庵で行われた。ところが3日が一番お客さんが詰めかけるといふ皮肉な



「イテテ」…後が大騒ぎ  
お茶をいただく学生②と

結果になった。やはり「一度は茶室に入ってみたかった人」が多かったせいだろう。

中大茶道会は他大学にはない大きな特徴がある。表千家・裏千家・江戸千家という3つの流派があるが、それが一つの部として存在していること。そして60人の部員が20人、3つに分かれて稽古をしているということだ。時には流派の違いで揉めることもあるようだが、身近で他の

流派の良いところを学ぶことができ、利点は大きい。

他大学の茶道会の方にとって、中大の存在は「羨ましいかぎり」ともいえ、よく見学に訪れる。理由は、表千家の家元がOBであったり、よい道具がそろっていて、素敵な茶室があることなどで、中大茶道部の名が高まっているかららしい。

文学部3年の原澤結さんは「日本は自分より人をたてる文化であり、

## 未来の理系大生、集まれ

### 小学生も対象に

理工学部では、「小・中・高校生

の科学実験教室」が開かれた。今年で5回目の開催で、今回から小学生も対象としたため参加者は定員を大幅に超え、3〜4の両日で100人を超えるほど。小学生の素直な好奇心は会場を大いに盛り上げた。

教室は田口東先生の講演で始まった。タイトルは「複雑な線画の長さをイチ、ニ、サンと測定する」で、ビュッフォンの針の原理を用いて実際に参会者も計算することになった。田口先生のわかりやすい説明と、サポート役を務めた大学院生のアドバ

イスもあって、小学生も答えにたどり着いた。計算の途中、田口先生の

「出来た人には商品があります」の一言も、彼らのやる気に火を付けたようだった。

午後からは稲葉次紀先生の「火の玉でゴミ退治」の講演が行われた。ここでいう「火の玉」とはプラズマのことを指す。稲葉先生はプラズマはごみ処理に役立つと説明。プラズマは超高温（摂氏1000度以上）のため、どんな有害廃棄物でも処理でき、しかも燃やすのではなく、溶かすのでクリーンな処理が可能にな

るといったものだった。

講演が終わると、参加者はそれぞれ班に分かれ、研究室を見学することになった。まず向かったのはハイテク・リサーチ・センター。ここでは実際にプラズマを見ることになる。稲葉先生から発生過程の説明を受けながら、参加者は初めて見るプラズマの輝きに見入っていた。

「人間と機械の共存」をテーマに、国井研究室ではさまざまな展示物が参加者の興味をひいた。太陽電池を使って動かすソーラーボードや惑星探査車ローバ。ロボットを遠隔操作

するテレオベレーションの実演など、「最先端技術の面白さ」は確実に参加者に届いた感じだった。

教室の最後に、司会を務めた白井宏先生は、「きょう学んだことが実生活に役立っていることを覚えていて欲しい」と挨拶した。

終了後、白井先生に、なぜ、新たに小学生を対象にしたのか伺ったら、「最近、子供たちの理系離れが話題になるが、こつ言った教室を通して小さい頃から興味を持ってもらいたいからです」とおっしゃった。しか



会場を盛り上げた小学生たち

し、小学生には難しい内容もあり、いかに分かりやすく伝えられるかが、今後の課題となるだろう。

僕は学生記者として3年間、このイベントの取材をやらせていただいたが、年々参加者は充実した顔つき

## 10検・31証 「高幡不動で飲んだ」

大学の終夜開放はこの機会を置いて他にない。とはいえ、事前に実行委員会に届け出をしていない教室は施設されてしまう。ペデ下で寝泊まりするのは自由だが、11月の夜は冷え込みが激しい。去年までは酒を飲み、語らい、なんとか乗り切っていたサークルだったが……。彼らの10・31を追跡してみた。

ペデ下にいる学生に話を聞いてみた。まずは禁酒措置の「容認派」4人組。完璧な防寒装備でジャン卓を囲んでいた。「サークルの屋台の場所取りを兼ねてオールナイトで麻雀をやっている。気の合う仲間と一緒に酒がなくても楽しい。テンションは高いぜ！ イエーツ（オールラウンド・4年）。前夜祭は仲間

で帰っていく。

最後に「理工学部は未来の大学生である、小さな子供たちも対象にしていくので、注目していてほしい」と白井先生がいわれた言葉が、私の心に残った。（中村）

ルは、今年はもちろん「酒抜き」で鍋をつついたが……。

これに対して「反対派」は、「やっぱり酒なしでは盛り上がり欠ける」（空手・4年）「昨年までの前夜祭の雰囲気は新入生に伝えられないのが悔しい」（旅行・3年）などだが、実はペデ下で聞かれた圧倒的多数の意見は「酒は飲めるなら、その方がいい。ただ飲めなくなったらからといって、特別困るわけでもない」。彼らは騒ぐでもなく「まったり」と語り合っただけだった。

※

今年のキャンパスにおける前夜祭は静かだった。酒飲みはどこへ行ってしまったのか。高幡不動午後10時駅周辺は夕方から飲み会を開いていた中大生で溢れかえっていた。「居



氣勢を上げる出店集団



チマチヨコリで「ごんご」

酒屋で8時から10時まで飲んだ。飲み屋は高い。学校で飲んだ方が安上がりでいい」(ポランティア・3年)「大学でお酒が飲めないことには反対。関係団体はもっと頑張っしてほしい」(オールラウンド・3年)。

雰囲気の良いものもあるだろうか。こちらは禁酒措置「絶対反対」の意見が多かったが、高幡不動で飲むことにはワケがあるという人もいる。

「高幡で2時間飲んだ。禁酒措置? どうでもいい。この時期、夜の大学っていうのも寒いしね」(サッカー・3年)。なるほど現実的な意見だが、彼はこう続けた。「でも、花見は学校ですると思っ。禁酒措置が花見まで適応されることには絶対反対。酒抜きの花見なんてねえ。そのへんはどうにかしてほしい」。

なにはともあれ、お酒に関わるトラブルは1件も起きなかった。しかし、そもそも今回の禁酒措置も、今年の花見での飲酒トラブルを大学側が深刻に受け止めたということを考え合わせれば、来春の「花見」での大学側の対応に注目が集まるところだ。

(山口)

## 「赤字帝王」の激安、大当たり

### 探検部の「打倒学食、奮戦記

今回、探検部が出店した激安食堂「赤字帝王」は、探検部の井上賢治(総政2年)が企画した。屋台のコンセプトは「本気で遊ぶ」とした。店名の由来は、「打倒学食」、「極限まで安さを追及」、「白門祭に旋風を」との思いが詰まったもの。商品構成は、松茸御飯80円、焼きそば80円、フランクフルト80円、焼き鳥40円で、12時から30分間のタイムサービス時には、「焼き鳥+他の3品いずれか一品」で100円という破格のプライス。もちろん、仕入れ値、包装費、器材費などは、徹底的な経費節減に努めた。データ管理には、エクセルを駆使し、グラフを交えた収支決算表を作成した。以下、エピソード。

**松茸御飯**：佐藤裕太(文2年)がバイト先の卸売り屋にて破格で仕入れてくれた。とは言ってもやはり松茸。高かった。しかし、松茸ご飯は店の象徴かつPRIDEでもあるのだ。僕らは、今年も迷わず「やせ我慢」を選んだ(右の写真は部員苦心のポスター)。

**焼き鳥**：中本亮介(総政1年)の提案で今年から採用された新商品。採用にあたって一番のネックになった、焼き鳥焼き器レンタル費(1万円)は、石材屋で見つけたU字溝(千円)に89円の網を載せ6kg・600円で購入した炭を燃料に使うことで代用した。調理方法は、実際に焼きとり屋で情報収集、試食を重ねた。また、肉質にこだわった結果、既成の冷凍品は使用せず自分達で肉を切り、串に刺した。

**フランクフルト**：マスタードは経費削減のために、すべて粉から練った。「ツーン」とする香りにやられ、皆で涙したのは言うまでもない。

**タイムサービス**：タイムサービス開始直前になると、行列ができた。「学祭で行列ができるお店は初めて見たよ」と言ってくれた中大生の言葉は何よりも嬉しかった。

**お客さん**：客層は中大生だけでなく、老若男女問わず幅広かった。「中大を一周してきたけど、ここが一番安いよ」と笑顔で言ってくれたおばちゃん言葉は今も心に残っている。

“**全員店長**”宣言：どうせやるなら、スタッフ全員にとって「記憶に残る店」にしよう。これが、僕らの合言葉だった。そのために学年を問わず、アイデアを募集した。そして、出てきたアイデアを何とか形にするために皆で智慧を絞った。常に赤字と隣り合わせの企画ゆえに、何かと工夫が必要だったことが、逆に皆の団結力を強めたのだと思う。



(文学部・内山 勇人)

# 展示会系「模擬店ばかりが白門祭ではない」

飲食模擬店ばかりが白門祭ではない。あなたはベテラ下の喧騒とは別の「白門祭」があるのを存じだろうか。展示会系の団体とは、この白門祭に合わせて研究・調査をまとめたり、作品を完成させたりして、その成果をお客様に見ていただく団体のことである。彼らにとって「白門祭とは何なのだろうか」、アンケート方式で聞いてみた。

【質問】①展示の内容、普段の活動内容②今回のテーマ③あなた（サークル）にとって白門祭とは

▼**地学研究会** ①写真や手作りのプラネタリウムを使って、天文学の世界を紹介 ②「ロマン」。写真は春休み・夏休みを使って取り溜めたプラネタリウムは徹夜で作った自信作 ③忙しい時期

▼**写真研究部** スライドで紹介 ②「明・暗」。とにかく、いいものをたくさんの人に見せたいと思った ③大きな見せ場であり、試練でもある

▼**中央大学考古学研究会** ①写真や模型を使った企画展示。白門祭にあわせて資料を集めた ②「多摩・甲州街道の近世」。夏休みから準備を進め、模型は新宿の博物館、府中の教育委員会からお借りした ③年1回の踏ん張りどころ

▼**美術クラブCATS** ①室内に見事な京風喫茶店を出現させ、お茶を飲みながら展示を親しむ ②作品も「京都」をイメージして作った。喫茶店との一体感を出したかった ③普段の活動は個人プレーになりがち。白門祭は「まとまる良い機会」

▼**史蹟研究会** ①6教室をフルに使った展示発表は壮観。模型、図などを使って解説 ②「時代ごとの神社の役割」「天部の役割」「故山水庭

## 年1回の「終夜運転」

園の成立」をテーマに3班に分けて作業した ③普段、見せられない活動をこの機会に見てもらおう

▼**展示朗読サークル** ①普段の活動で使う音声案内の機械や、点字書籍の展示と調査をもとにした特別展示 ②今回の白門祭に合わせて多摩都市モノレール各駅の点字・音声案内の環境を調査した。設備の充実度にはバラつきがあるものの、全体的にはよく整っていた ③点字などの案内環境に、少しでも理解を深めていただけたらと思っています。

▼**ボランティアサークルこあら** ①普段の活動を使って発表 ②日々の奉仕活動の様子を展示した ③「サークルの団結、交流」かな

▼**児童文学研究会イーハトーブ** ①普段は児童図書館に出張して読み聞かせの手伝いをしたり、定期的に読書会を開いたりしている。白門祭に合わせて約1か月かけて展示を準備した ②「魔法使い特集」。各自が資料を持ち寄って作成した ③私のすべて

▼**鉄道研究会** ①鉄道写真と鉄道模型の展示。彼らにとっての白門祭とは？ 答えに注目！ ②写真は1年かけて撮り溜めし、模型は毎日、コツコツと作ってきた。とにかく頑張った ③1年に1回の終夜運転

▼**平和哲学研究会** ①テロ事件を踏まえつつ、平和について考えさせる展示を発表 ②「今を生きる」。僕らができることって、なんだろうと考えた ③自らの鍛えの場、成長の場

▼**さくら会・なでしこ会** 平和問題に関する展示と談話。テロ問題をめぐる展示が目立った ②「平和への挑戦」 ③対話の場

▼**白獅会** ①世界の偉人の足跡を掲示発表。合言葉は「起てよ若者」 ②「思想と行動」。若者よ、熱く生きよう！ ③自分たちの思想を熱く語るチャンス。白門祭をつまらないという人もいるが、楽しめるかなんて、参加者次第なんじゃないのか！

(山口)